

Sunny Town ICHINOMIYA

2004 一宮町勢要覧



躍動する緑と海と太陽のまち



一宮町長

近藤 直



一宮町は、上総国一之宮、城下町一宮をいしずえに先人たちの知恵と勇気、そしてたゆまぬ努力の積みかさねにより、人材の育成や社会資本整備、産業振興がはかられ築かれてきたものです。

また、同時に独特な雰囲気をかもしだす文化も醸成され、とくに明治以降、多くの著名な文人墨客の別荘が立ち並ぶなど都市との交流が盛んになり、都会の文化との融合がはかられてきました。

この文化と歴史の変遷を、現在の町の姿とともにその一端を「文化往来」をテーマに紹介いたします。

これからも「躍動する緑と海と太陽のまち」をスローガンに、未来にむけたまちづくり展開し、先人たちが築きつちかったこのすばらしいふるさと「いちのみや」をさらに発展させること。そして次世代に引き継ぐことが私たちの責務と考えておりますので、尚一層のご理解とご協力をお願いいたします。

文化往来 ②～ここに生まれしものたち。～
文人浪漫／芥川龍之介①白鳥省吾、北沢楽天①
歴史海道／一宮の軌跡をたどる③
熱波祭礼／高ぶる魂、熱い連帯①⑥
美味感動／海と大地の贈り物①⑧
青空白波／水平線に焦がれて②⑩
未来に向けて②② 行政・議会②④
一宮町イラストマップ③②



白砂青松の海岸線。

一宮川に行くポンポン船。

悠々自適の避暑客たち。

なにより、自然があり、

文化があるところで、

人はもの想い、英気を養う。

かの若き芥川龍之介が

愛に惑い、悩んだ。

詩人・白鳥省吾は、

人生を詠った。

そして、古代から

日々の営みのなかにこそ

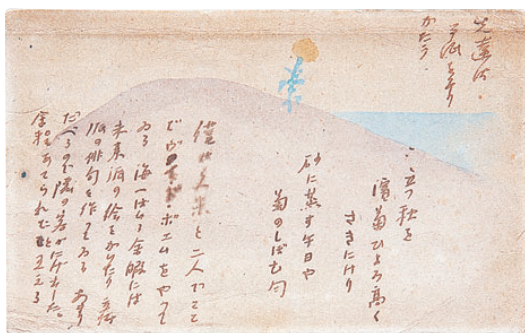
未来へと続く

真実があることを

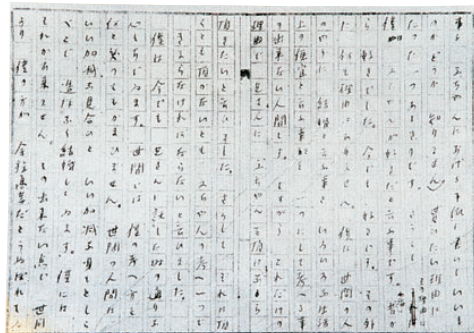
まちの歴史は知っている。

来 往 文 化

こ こ に 生 ま れ し も の た ち 。



芥川莊滞在中に友人谷森鯉男に宛てたハガキ



塚本文への求婚の手紙



愛の碑

文豪芥川龍之介と久米正雄は、かつてこの離れで一夏を過ごし、龍之介はのちの夫人となる文さんに熱烈な長い恋文を出しました。一高時代の同級生菊池寛からは、様子をうかがう手紙がこの宿に届いています。これは文藝春秋社を設立した菊地寛が芥川賞を設定する19年前の話です。



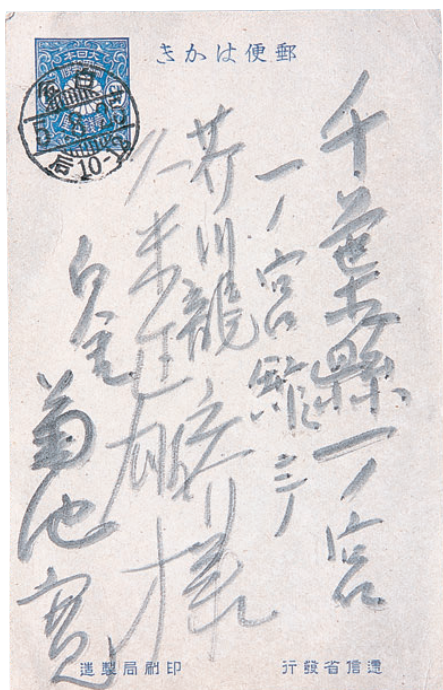
(写真提供 毎日新聞社)

芥川龍之介は、大正3年（一九一四）と大正5年（一九一六）の夏、一宮に滞在しました。最初の一宮滞在の時は、吉田弥生との恋愛で悩んでいた龍之介を見かねて、一高時代の同級生だった堀内利器が誘ったと伝えられています。龍之介は町屋に滞在し、毎日のように海水浴に行っていたといいます。大正5年、「羅生門」や「鼻」など

によつて文壇に華々しいデビューを果たした龍之介は、再び一宮を訪れました。彼は友人の久米正雄と、一宮海岸近くのホテル一宮館の離れでひと夏を過ごしました。ここで龍之介は、師である夏目漱石に手紙を書いたほか、後に妻となる塚本文に宛てて、長い求婚の手紙を書いています。彼の滞在中に離れは、現在「芥川荘」と名付けられています。当時の茅葺き屋根はそのまま残され、平成13年5月、国の登録有形文化財となりました。

平成3年には、龍之介の孫娘瑠璃子氏の賛同を得て、芥川荘のそばに芥川龍之介文学碑が建てられ、以来毎年俳前祭が行われています。この文学碑には、龍之介の書いた求婚の手紙が焼き込まれています。

一宮の思い出は、「微笑」「海の手とり」「玄鶴山房」「蜃気楼」などの作品に登場します。



滞在中の龍之介と久米正雄に宛てた菊池寛からの手紙



恋文全文を刻んだ文学碑

一宮町を二度訪れた芥川龍之介のラブレター



芥川荘



大正五年八月廿五日期 一の宮町海岸 宮館にて 文ちゃん。

僕は、まだこの海岸で、本を読んだり原稿を書いたりして暮らしてゐます。何時頃うちへかへるか それはまだ はつきりわかりません。が、うちへ帰ってからは 文ちゃんに かう云う手紙を書く機会がなくなると思ひますから 奮発して 一つ長いのを書きます。ひるまは 仕事をしたり泳いだりしてゐるので、忘れてゐますが夕方や夜は 東京がこひしくなります。さうして 早く又 ああかきりの多い にぎやかな通りを歩きたいと思ひます。しかし、東京がこひしくなると云ふのは、東京の町がこひしくなるばかりではありません。東京にある人もこひしくなるのです。さう云う時に 僕は時々 文ちゃんの事を思ひ出します。文ちゃんを貰ひたいと云ふ事を、僕が兄さんに話してから 何年になるでせう。（こんな事を 文ちゃんにあげる手紙に書いていいものかどうか知りません）

貰ひたい理由は たった一つあるきりです。さうして その理由は僕は 文ちゃんが好きだと云ふ事です。勿論昔から 好きでした。今でも 好きです。その外に何も理由はありません。僕は 世間の人のやうに結婚と云ふ事と いろいろな生活上の便宜と云ふ事とを一つにして考へる事の出来ない人間です。ですから これだけの理由で 兄さんに 文ちゃんを頂けるなら頂きたいと云ひました。さうして それは頂くとも頂かないとも 文ちゃんの考へ一つで きまらなければならぬと云ひました。

僕は 今でも 兄さんに話した時の通りな心もちでゐます。世間では 僕の考へ方を 何と笑つてもかまひません。世間の人間は いかに加減な見合ひと いい加減な身元しらべとで 造作なく結婚してゐます。僕には それが出来ません。その出来ない点で 世間より僕の方が 余程高潔だとつねばれてゐます。

兎に角 僕が文ちゃんを貰ふか貰はないかと云ふ事は全く文ちゃん次第で きまる事なのです。僕から云へば 勿論 承知して頂きたいのには違ひありません。しかし 一分一厘でも 文ちゃんの考へを 無理に脅かすやうな事があつては 文ちゃん自身にも 文ちゃんのお母さまやお兄さんにも 僕がすまない事になります。ですから 文ちゃんは 完く自由に 自分でどつちともきめなければいけません。万一 後悔するやうな事があつては 大へんです。

僕のやつてゐる商売は 今の日本で 一番金にならない商売です。その上 僕自身も碌に金はありません。ですから 生活の程度から云へば 何時までたつても知れたものです。それから 僕は からも あたかもあまり上等に出来上がつてゐません。（あたまの方は それでは まだ少しは自信があります）。うちは 父、母、叔母と、としよりが三人ゐます。それでよければ来て下さい。僕には 文ちゃん自身の口から かざり気のない返事を聞きたいと思つてゐます。繰返して書きますが、理由は一つしかありません。僕は文ちゃんが好きます。それでよければ来て下さい。

この手紙は 人に見せても見せなくても文ちゃんの自由です。一の宮は もう秋らしくなりました。木槿の葉がしばみかたり 弘法麦の穂がこげ茶色になつたりしてゐるのを見ると 心細い気がします。僕がここにある間に 書く暇と書く気があつたら もう一度手紙を書いて下さい。「暇と気があつたら」です。書かなくつてもかまひません。が 書いて頂ければ 尚うれしいだらうと思ひます。

これでやめます 皆さまによろしく

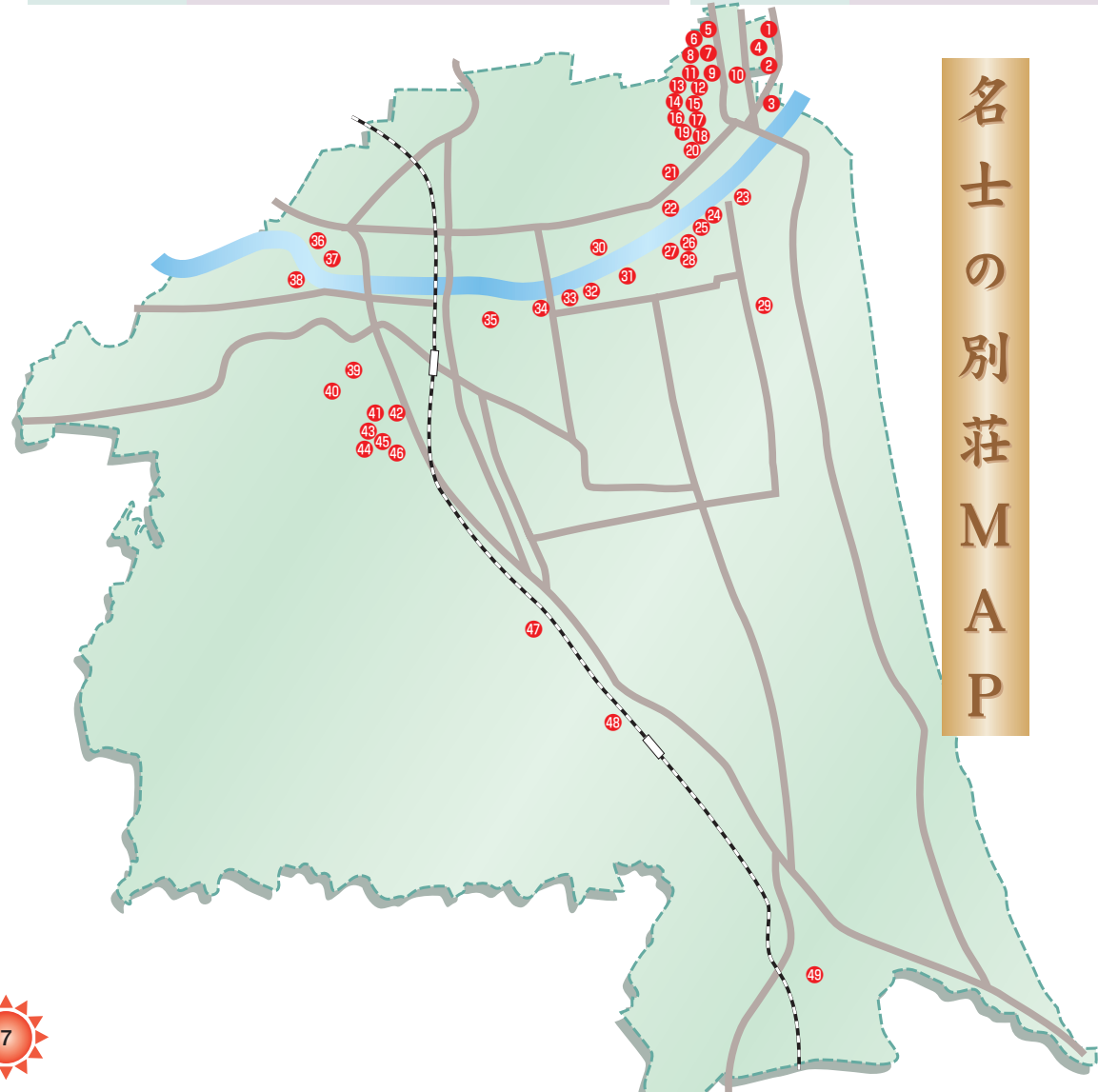
芥川龍之介

文人浪漫



氏名	略歴
① 佃一誠	勸業銀行理事
② 馬淵鋭太郎	京都市長
③ 佐々熊太郎	実業家、大蔵省専売局、東亜煙草社長
④ 三好成行	男爵、陸軍中尉（歩）
⑤ 川村竹治	和歌山県知事、満鉄総裁、台湾総督
⑥ 吉松茂太郎	海軍大将
⑦ 仁礼景範	子爵、海軍中尉、大臣
⑧ 加藤友三郎	子爵、元帥、日本海海戦連合艦隊参謀長、海将、首相
⑨ 齊藤実	子爵、海軍大将、朝鮮総督、首相、
⑩ 今津孝則	陸軍大将（砲）
⑪ 河原要一	海軍中将、日清戦争吉野艦長
⑫ 寺垣猪三	海軍中将、横須賀参謀長
⑬ 木村荘介	海軍医総監
⑭ 中山長明	海軍少将、舞鶴港務部長
⑮ 岩崎達人	海軍少将
⑯ 山田陽朔	実業家、山中銀行役員
⑰ 税所篤文	陸軍少将（砲）旅順要塞司令官
⑱ 隅元正次	陸軍少将（砲）野砲第2旅団長
⑲ 駒沢伝吉	実業家、貸地・貸家業、日本セルロイド社長
⑳ 大迫尚道	本名新八郎、陸軍大将、砲兵監、軍事参事官
㉑ 牟田敬九郎	陸軍中将（砲）、下関要塞司令官
㉒ 三井八郎治郎	実業家、三井家8代高福の四男、別荘地寄贈（一宮学園）
㉓ 加納久朗	正金銀行役員、日本住宅公団総裁、千葉県知事
㉔ 前田利定	通信大臣、農商大臣
㉕ 袴田喜四郎	実業家、東京ガス、富国銀行役員

氏名	略歴
㉖ 難波一	医博
㉗ 依国一	工・理博、日本刀研究家、東大教授
㉘ 山本景行	海軍医大監
㉙ 上原勇作	子爵、元帥（工）教育総監、参謀総長、陸相
㉚ 佐竹義春	侯爵、秋田久保田藩（20万5千石）
㉛ 河瀬眞	子爵、海軍少将、貴族院
㉜ 大河内正敏	子爵、工博、東大教授、理化学研究所長、海軍参事官
㉝ 清野長太郎	兵庫県知事、復興局長官
㉞ 平沼騏一郎	男爵、法博、大審院長、検事総長、首相
㉟ 栗津清亮	工博、有隣生命役員
㊱ 伊達邦宗	伯爵、仙台藩（28万石）
㊲ 北沢楽天	本名保次、画家
㊳ 高石真五郎	毎日新聞編集主幹、IOC委員
㊴ 福岡豊和	佐賀藩福岡敬明男爵の次男、大審院判事
㊵ 川島忠之助	実業家、正金銀行役員、翻訳家
㊶ トーマス・ペイテ	法博、日本政府法律顧問
㊷ 加納久宜	子爵、一宮藩主、鹿児島県知事、貴族院、町長
㊸ 伊吹山次郎	文学者、伊吹山徳司の次男
㊹ 中村進午	法博、学習院大教授、東大教授
㊺ 金田鬼一	四高、学習院大教授、『グリム童話集』翻訳
㊻ 志田鉦太郎	法博、明大総長
㊼ 大関増輝	子爵、下野黒羽藩（1万8千石）
㊽ 白鳥省吾	詩人、一宮音頭、東浪見小学校校歌作曲
㊾ 関和知	毎日新聞編集長、衆議院議員

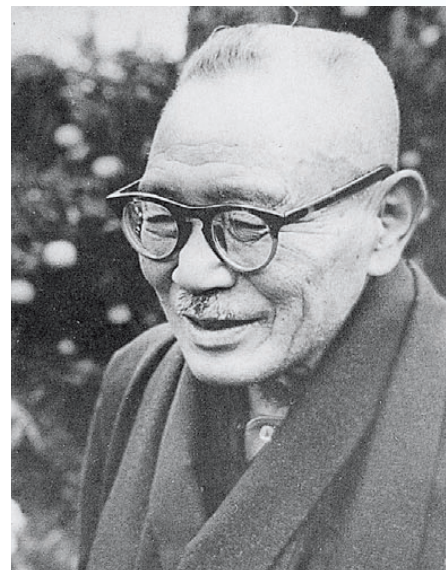


名士の別荘MAP

かつて一宮は、数多くの名士に親しまれたまちでした。

民衆詩派の代表的な詩人、白鳥省吾は、晩年を一宮で過ごしました。
明治23年、宮城県栗原郡に生まれた省吾は、幼少の頃から秀才と評判で、旧制中学時代には文芸誌に詩を投稿して入選するなど、詩人として才能の片鱗を示していました。その後、早稲田大学英文科で坪内逍遙などに学びます。
省吾は東京に住んでいましたが、太平洋戦争が激しさを増した昭和19年に、一家全員で一宮（当時の東浪見村）の遍照寺に疎開し、10年あまりを過ごしました。そこで文学青年と語り合い、町の句会に出席するなど、地域の文化活動に貢献しています。

白鳥省吾 Shiratori Shogo



白鳥省吾
弘田龍太郎



遍照寺



遍照寺から海を眺めることができる



南宮神社



北沢楽天の絵馬

北沢楽天

Kitazawa Rakuten

北沢楽天は、日本初の職業漫画家としてその名を知られ、「ボンチ絵」と評価の低かった風刺画を近代漫画として確立しました。日本画、洋画の基礎と西洋漫画の技法を学んだ楽天は、福沢諭吉に才能を認められ、時事新報社に入社し、明治38年に出版した時局風刺雑誌『東京パック』で絶大な人気を得ました。

楽天は明治末期、一宮川沿いに別荘を購入して滞在しましたが、大正5年の大洪水で流されてしまいました。彼は唯一残った1枚の門扉に、犠牲者の供養と災害の記録のため、「神威顕現」と題して水魔克服の神を描き、南宮神社へ奉納しています。絵馬は、一宮川と別荘地の歴史が刻まれた貴重な資料として、平成15年、町指定有形文化財に指定されました。



道海史 歴

原始時代

一宮は長生郡を流域とする一宮川が太平洋に注ぐ河口に発達した町です。いまから約5〜6万年前に、現在のような房総半島が誕生しましたが、縄文時代（約3000年前）になって一宮に人が住み始めたことが、町の西方にある貝殻塚貝塚の発掘により証明されています。貝塚からは石器の他、鯨、サメ、カメの骨やシジミ、ナガラミ、ハマグリなど貝類が出土しています。

その後、豪族が出現し、やがて大和朝廷が成立。こうした権力者たちの墓と推測される横穴古墳が町内数カ所に分布しており、柚ノ木横穴古墳もそのひとつです。

古代

飛鳥時代に入ると、房総に安房・上総・下総の三国が誕生。相模から走水（浦賀水道）を渡って、上総、下総そして常陸国へと古東海道の往来が盛んになったのも、この時代のことです。一宮にある玉前（たまさき）神社が、上総一の宮に位置づけられたのも、朝廷の力が東上総に及んだためでしょう。

雅な印象のある平安の世は、実は、武士たちの争いが絶えない時代でした。房総では、平氏一門の千葉氏と上総氏が地域を取り仕切る武士団として台頭。しかし、房総三国で起きた将門の乱や、それに続いた幾度かの戦乱で、土地や人々の暮らしが荒らされたことが、容易に想像できます。

一宮の軌跡をたどる



東浪見寺仁王門



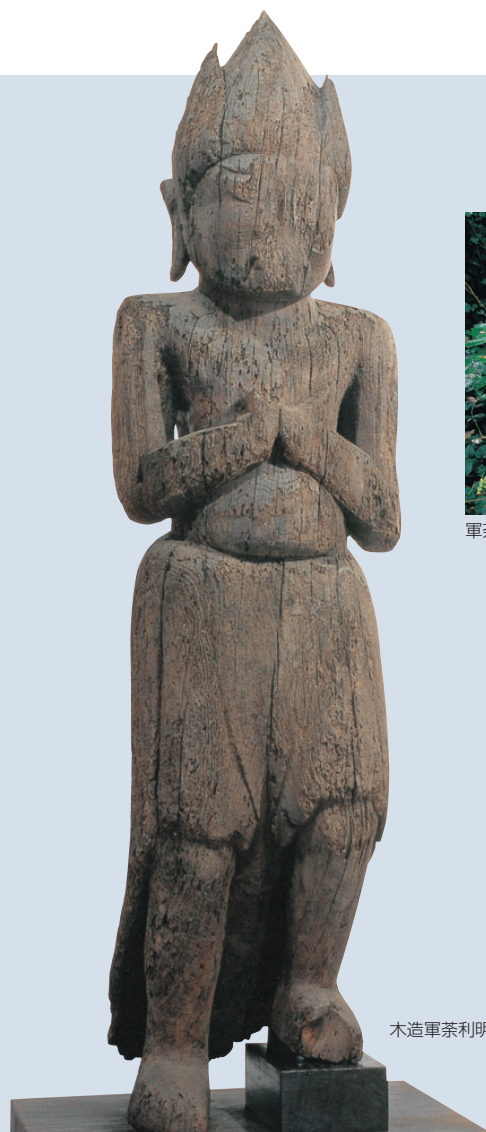
貝殻塚貝塚（町指定遺跡）



東浪見寺本堂



軍荼利山植物群落（県指定天然記念物）



木造軍荼利明王立像（県指定有形文化財）

道海史 歴

中世

平家との抗争に破れ、房州に逃げ延びた源頼朝。彼が頼りにしたのが、千葉亥鼻城の下総介千葉常胤と、高藤山（一ノ宮柳沢城）にいた上総介平広常でした。頼朝の要請に応じて、広常が動員した兵は2万。頼朝が率いた軍勢3万のうちの3分の2が、いまの長生・夷隅・君津の3郡から集められた広常の軍勢だったことから、その力の程がうかがえます。

その後、広常が頼朝に殺害されてしまうと、常胤の孫常秀が居城とした時代を経て柳沢城は廃虚に。今では高藤山城址と古蹟之碑が残るのみです。

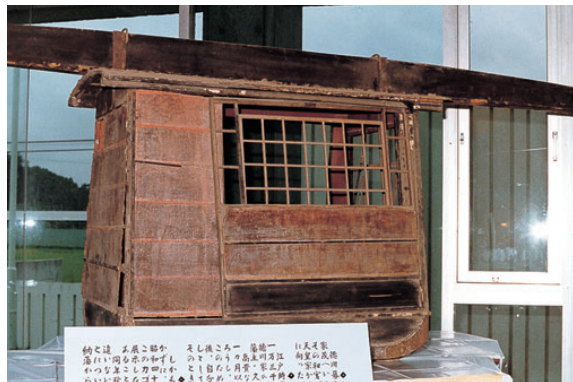
また戦国時代末期に要塞の山城として築かれた一宮城は、里見氏と正木氏の争いによって永禄5年頃、落城したといわれています。

近世

徳川家康の支配下におかれた房総では、本多忠勝が大多喜10万石の城主になり、その領地の一部であった一宮で、内藤四郎左衛門正成が城代を務めます。

江戸中期、一宮は徳川吉宗に仕えていた加納藩9代久通が一万石の大名として治めることに。以後、加納家は16代久宣（のちの一宮町長）まで、陣屋や農業用水として洞庭湖の造成、海岸防備のため徴兵制度の整備や砲台の設置などを行いながら、一宮本郷村などの10村を分郷支配しました。

一宮でも行われている九十九里浜の地曳網は、戦国時代に紀州から伝えられたのが起源とされ、幕府の保護もあって、江戸後期文化文政・天保のころはかなりの漁獲高で、昭和40年代頃までは盛んに行われていました。



皇女和宮の御駕籠（町指定有形文化財）（上）／高藤山城址と古蹟の碑（町指定史跡）（下）



梅樹双雀鏡（国指定重要文化財）



玉前神社 蓬萊鏡（町指定有形文化財）



加納久宣公の墓（町指定史跡）



玉前神社社殿（県指定有形文化財）

明治23年に誕生した一宮町。 昭和30年にいまの一宮町が 確定し、新しい時代へと。

町としての成り立ち

明治という新しい時代の幕が開いて以来、大正、昭和を経て平成まで、わが国は大きな変化、躍進の道をたどってきました。それは、一宮についてもあてはまります。

明治4年、廃藩置県が実施されると、一宮は藩から県に変わり、その後すぐに木更津県に統合。明治6年、木更津県と印旛県が統合して千葉県ができたときには、一宮本郷村・新笈村・東浪見村・網田村の4村が近隣14力村とともに一大行政区を形成しました。これが基礎となつて、明治14年、一宮本郷村と新笈村の合併により、一宮本郷村に。明治23年には一宮町と改称し、ここに一宮町が誕生しました。

その後は、昭和28年に一宮町と東浪見村が合併。29年には一松村船頭給、30年には一松村新地と八積村宮原が分村編入。こうして、何回かの変遷を経て、現在の一宮となりました。

昭和40年代ごろからは、町は各産業をはじめ、教育、福祉などの充実に努め、施設建設や各種活動を実施するとともに、文化財や祭りといった伝統的なものを守る方針を打ち出しました。

早くから農業振興に着手

明治政府による殖産興業の方針のもとに、一宮では産業振興に明治時代早々から取り組みました。なかでも農業については、明治41年、全国に先がけて耕地整理を実施したほか、土地改良や灌漑設備工事を行うなど、かなり意欲的な事業だったといえるでしょう。旧藩主で一宮町長となった加納久宜が農業方面に博識だったこともあって、稲作をはじめ、生鮮野菜、果樹、養鶏、養豚など、多岐にわたる分野の指導、研究、品評会なども行われました。

こうして生産基盤ができたことで、一宮の農家はこの土地、その時代に合った方法で近代的な農業を営むようになりま



玉前神社神選田のお田植

【上総とんび】

300年の歴史が空を舞う

町の無形民俗文化財に指定され、県指定伝統的工芸品となっている「上総とんび」は、一宮に江戸時代から伝わる縁起物の装飾凧です。漁師が豊漁のお礼詣でのときに装う万祝（まいわい）という衣裳に倣った形と、色鮮やかで独特な絵柄装飾の美しさが目を引きま



馬耕



酒醸家の人々



旧一宮信用組合倉庫



一宮本郷区裁判所



豊漁 地曳網



旧一宮警察署



醤油醸造元の店先

一宮町の歴史

- 1890年（明治23年）一宮本郷村、新笈村と合併し、一宮町となる。
- 1891年（明治24年）一宮区裁判所新設開庁
- 1892年（明治25年）東浪見小学校新校舎落成
- 1893年（明治26年）関宗現、梨苗を植え増殖を図る。東上総梨の始まり
- 1894年（明治27年）一宮町消防組設立／日清戦争勃発（28年）
- 1895年（明治28年）一宮商業銀行設立
- 1896年（明治29年）一宮商業倶楽部誕生
- 1897年（明治30年）大綱、一宮間鉄道開通、一宮駅営業開始（第九十八国立銀行一宮支店開業、現在の千葉銀行一宮支店の前身）
- 1898年（明治31年）一宮商業銀行設立
- 1899年（明治32年）一宮町農会、団体として認められる
- 1901年（明治34年）網田小、東浪見小に合併
- 1904年（明治37年）日露戦争勃発（38年）
- 1906年（明治39年）隧道創設工事起工（西部耕地整理）
- 1907年（明治40年）一宮町信用組合創立（農協の前身）
- 1908年（明治41年）一宮町青年会発会／全国に先がけ耕地整理始まる。一宮駅、海岸の間154町5反歩（大正3年）
- 1909年（明治42年）電話交換業務開設／杉山式馬耕始まる。
- 1910年（明治43年）一宮婦人会発会（会長加納子爵夫人鑑子（昭和16年））
- 1911年（明治44年）この頃一宮海水浴場できる
- 1912年（明治45年）加納久宜、町長に就任（大正5年）生活改善論（加納久宜）
- 1913年（大正2年）一宮女学校設立（昭和8年）
- 1914年（大正3年）一宮に初めて電灯が灯る／青年会商業部を海岸に開設
- 1915年（大正4年）養蚕組合結成（一宮）
- 1916年（大正5年）隔離病舎新築／養蚕組合結成（東浪見）／東浪見村青年会発会／豪雨のため一宮川溢水、宮原地区に被害
- 1917年（大正6年）一宮公会堂開設
- 1918年（大正7年）米価高騰
- 1919年（大正8年）加納久宜、逝去／東浪見一宮漁業組合免許受ける
- 1921年（大正10年）観明寺下消防用大貯水池をつくる
- 1922年（大正11年）一宮警察船に42尺の鉄骨望楼兼火の見櫓を設置
- 1923年（大正12年）ゴンドウ鯉の大群東浪見海岸へ／関東大震災、一宮では大きな被害はない
- 1925年（大正14年）一宮実業学校創立
- 1927年（昭和2年）一宮学園開設
- 1930年（昭和5年）一宮川堤防決壊、宮原地区被害受ける。
- 1931年（昭和6年）徳川大尉、所沢、一宮間長距離飛行に成功／冷害による大凶作／満州事変始まる
- 1932年（昭和7年）大父の堀池改修、ヒュム管理設（東部耕地整理組合）／一宮園芸組合結成
- 1933年（昭和8年）軍薬利山堀池工事着工（20年）
- 1935年（昭和10年）一宮、東浪見国防婦人会結成（7年解散、大日本婦人会として発足、終戦により解散）
- 1936年（昭和11年）一宮小学校新築
- 1937年（昭和12年）日支事変始まる
- 1938年（昭和13年）国民健康保険法成立実施
- 1940年（昭和15年）親の谷堀池新設工事起工（19年）（西部耕地整理組合）
- 1941年（昭和16年）一宮川潮止堰完成／太平洋戦争突入（20年）
- 1942年（昭和17年）青少年団体、婦人会が大政翼賛会の傘下に入
- 1943年（昭和18年）一宮町農会設立／東浪見第2耕地整理組合設立／雨竜湖計画／一宮町森林組合設立
- 1944年（昭和19年）西部丘陵に横穴六地構築／風船爆弾、一宮基地（海岸）から上げる
- 1945年（昭和20年）終戦、復興始まる
- 1946年（昭和21年）自作農創設特別措置法公布／農地委員会の委員選出／一宮町婦人会再度結集し、あづま会（東浪見地区婦人会）誕生
- 1947年（昭和22年）公選町長の選挙で田中周当選／一宮中学校創立／農業共済組合発足／千葉地方検察庁一宮支部発足
- 1948年（昭和23年）農業協同組合設立（一宮、東浪見）／衣料品協同組合設立
- 1949年（昭和24年）一宮町乳牛組合結成
- 1950年（昭和25年）千葉県林業技術指導所運営開始
- 1951年（昭和26年）農業委員会委員選挙／東浪見、一宮漁業協同組合（登記）／一宮保育所開設
- 1952年（昭和27年）一宮町未亡人会発足
- 1953年（昭和28年）東浪見村と一宮町が合併し、新たに一宮町を設立。町長に久我松太郎就任／梅樹双金鏡、国重要文化財に指定
- 1954年（昭和29年）船頭給、長生村より分村編入／東浪見保育所新築竣工
- 1955年（昭和30年）新地、宮原が長生村より分村編入／一宮町社会福祉協議会設立／国勢調査、人口11387人、世帯数2060世帯
- 1957年（昭和32年）国民健康保険全町業務開始／軍薬利明王立像、県有形文化財に指定／軍薬利山植物群落、県指定天然記念物に指定／都市計画決定
- 1958年（昭和33年）東浪見中学校と一宮中学校統合／玉前神社神楽、県無形民俗文化財に指定
- 1959年（昭和34年）有線放送施設竣工、業務開始／一宮中学校新校舎完成／県より社会福祉振興地区に指定／国民年金業務開始
- 1960年（昭和35年）一宮町商工会法人に改組、原保育所新築竣工／国勢調査、人口10694人、世帯数1511世帯
- 1961年（昭和36年）町営住宅を待山に建設／原保界開所
- 1962年（昭和37年）福祉センター及び公民館竣工／簡易水道事業着手（39年）町営住宅を梅堀前に建設
- 1963年（昭和38年）国民宿舎一宮荘竣工／一宮保育所新築竣工／町営住宅を野中に建設（39年）／一宮町史編纂、39年発行／国土調査開始（63年）
- 1965年（昭和40年）有線放送施設の自動化完成／町営住宅を川間台に建設（42年）／国勢調査、人口10196人、世帯数2651世帯／東浪見構句、県無形民俗文化財に指定

す。昭和初期の農村不況の時代には打撃を受けながらも、町では一宮経済更生委員会をつくって対策を指導。そして、第二次世界大戦直後に実施された農地改革によって農業の世界に大変革が起きると、一宮の農業も生産技術の向上や大型機械化により、都市近郊型の新しい段階に入ります。

例えば稲作以外でいうと、江戸時代から盛んだった野菜づくり＝南瓜（かぼちゃ）や西瓜（スイカ）といった瓜系の作物の生産は、露地栽培トマトや金マクワ瓜などに取って代わられました。しかも、そのトマトの栽培自体も、露地からビニールハウス、そしてコンピュータ制御のガラス温室へと変遷。設備拡充とそれに伴う増産には目を見張るものがあります。

また、現在、一宮の特産品として有名なのが梨とメロン。梨の場合、明治6年に綱田の農家、関宗助がいまの「東上総梨」となる元の苗木を植えて栽培を試みたことが始まりといわれています。



一宮郵便局（改築前）



一宮実業学校（旧一宮病院）

避暑地、一宮

冬暖かく、夏涼しい景勝の地である一宮は、観光地としての歴史があります。明治44年には、海水浴場が開設され、明治末期から昭和10年代頃には、夏になると大勢の避暑客を集めました。芥川龍之介などの文人をはじめ、政治家、軍人、財界人といった名士たちがこぞって来訪し、最盛期には100軒近い別荘が建ち、一宮は“東の大磯”と呼ばれました。

そのにぎわいは、戦争や経済状態の悪化などから途絶えてしまいました。その後、別荘は企業などの保養所に姿を変え、昭和40年代以降は、ゴルフ場や乗馬クラブ、サーフィンといった新しい遊びのあるリゾート地として復活しています。また、夏には観光用の地曳き綱が行われ、観光客に喜ばれています。

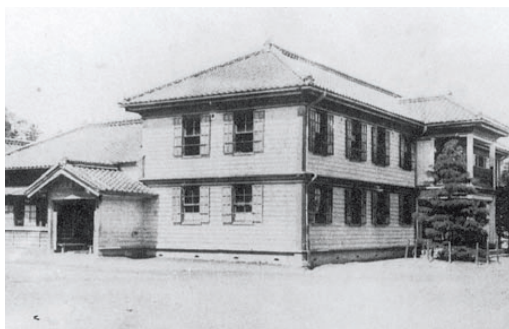


旧一宮町商工会

【献上シジミ】 「風味絶倫」献上シジミ

かつての一宮川は水がきれいで、淡水魚貝類にはとても住みやすい環境でした。潮の引いた川の瀬に足を差し入れると、ゴツゴツと貝が当たるほどたくさん獲れたそうです。ここで獲れるシジミは大粒で、味が格別だったといわれています。シジミはやや黄みがかった色をしていることから、黄シジミともいわれました。

このシジミは、一宮藩主加納公が毎年将軍に差し上げたため、「献上シジミ」と呼ばれるようになりました。また、明治の詩人梁川星巖は、この地を訪れて口にしたシジミを、風味絶倫であると表現しています。



一宮尋常高等小学校校舎（大正時代）



東浪見尋常高等小学校（大正11年）



昭和初期の耕地整理



元旦なぎさマラソン



昭和はじめ頃の梨畑

一宮町の歴史

- 1966年（昭和41年）東浪見婦人会と一宮婦人会が統合
- 1967年（昭和42年）役場庁舎、現在地に竣工／母子休養ホームなどの家業務開始
- 1968年（昭和43年）町営住宅を新郷に建設（44年）野洲近代化事業完成／自然公園助成事業（海岸道路、着工）／宮町体育協会設立
- 1969年（昭和44年）一宮町社会福祉協議会を法人に改組
- 1970年（昭和45年）町営住宅を大村に建設／国民宿舎新郷竣工／国勢調査 人口99,299人 世帯数3,009世帯
- 1971年（昭和46年）一宮中学校新校舎竣工／長生郡市広域市町村圏組合を設立／公社電話自動化施設完成／用途区域の決定
- 1972年（昭和47年）中央公民館竣工／全町上水道完成／国鉄外房線電化工事完成／東浪見小学校新校舎竣工
- 1973年（昭和48年）合併20周年記念式典挙行／東浪見保育所完成／下施設園芸モノ同地完成
- 1974年（昭和49年）自転車新設工事（谷場前）海岸側
- 1975年（昭和50年）老人福祉センター完成／国勢調査 人口100,955人 世帯数2,464世帯
- 1976年（昭和51年）東部土地改良農道ほ場整備事業始まる／宮原排水工事完成
- 1977年（昭和52年）町営野球場完成／上総おどり始まる／灯籠流し復活
- 1978年（昭和53年）一宮小学校新校舎完成 県立長生養護学校 一宮町へ移転／東浪見中部施設園芸同地完成
- 1979年（昭和54年）一宮保育所新築竣工／憩いの森完成／日本の省エネルギー温室同地完成／東浪見海水浴場新設
- 1980年（昭和55年）国鉄横須賀線（宮ノ久里浜間）直通運転開始／一宮号運転開始／国勢調査 人口104,486人 世帯数2,724世帯
- 1981年（昭和56年）臨海運動公園完成
- 1982年（昭和57年）山梨一宮町と友好町締結／あらおい橋完成／区の一に県営住宅完成
- 1983年（昭和58年）新地地区温室同地建設／梨のハウス栽培開始／振武館完成／合併30周年記念事業
- 1984年（昭和59年）商工会館建設／東浪見北部温室同地建設
- 1985年（昭和60年）防災行政無線開設／GSSセンター完成／6都県市合同防災訓練 一宮町で開催／国勢調査人口106,977人 世帯数2,690世帯
- 1986年（昭和61年）綱田線橋完成／綱田地区ライオンセンター完成／駅前観光物産直売所・観光案内所開設
- 1987年（昭和62年）原保育所新築完成／都市下水路事業着手／工業県方沖地地震発生
- 1988年（昭和63年）町をきれいにする課発足／町づくり研究会発足／本郷、東浪見、区画整理事業可着工
- 1989年（平成元年）町の花「山ゆり」選定／一宮町環境美化推進町大会開催／環境美化宣言／舞台地区の区画整理事業認可／8月1日豪雨／山ゆりの球根配布
- 1990年（平成2年）町制100周年記念事業／農業集落排水事業局地区処理場完成／一宮町民憲章制定／幼児広場完成／国勢調査 人口111,350人 世帯数3,181世帯
- 1991年（平成3年）一宮川等流域環境保全推進協議会発足／献血推進地区モデル事業「さわやかハート」は5ヶ年計画（工業界）／法律相談開始／ホームタウン特賞開設
- 1992年（平成4年）本給土地地区画整理事業完了／一宮町スポーツ財団設立／トマト館完成／中央ポンプ場建設工事完成／一宮小学校120周年記念式典 一宮町総合計画策定 第一次実施計画
- 1993年（平成5年）津波避難訓練／東浪見小学校120周年記念式典／稲作不作／都市下水路通水式／土曜閉庁／県営住宅（船頭給地区）着工（9年）／公民館図書室分室商工会館に設置／ロマンロード着工（8年）
- 1994年（平成6年）都市マスタープラン策定／老人福祉計画策定／一宮中学校改築着工（7年）／各集会所にビデオ内蔵テレビを設置／おはようわかしお号運転開始／JAKクリーンアップ着工（7年）
- 1995年（平成7年）国勢調査 人口113,022人 世帯数3,433世帯／第2次実施計画／非核平和都市宣言／一宮町合併40周年、終戦50周年記念事業として、ひるの歌謡曲公開録音・放送／中ノ橋架け替え工事完成／農村自然環境整備事業上総地区事業採択／模範議会開催／一宮川流域治水環境対策協議会設置／国民健康保険、脳ドック開始／台風12号 一宮町に大きな被害
- 1996年（平成8年）台風17号 一宮町に大きな被害 一宮川激甚災害対策特別緊急事業採択／第1回上総国一宮まつり開催／農業集落排水事業東浪見クリーンプラント完成／特別養護老人ホーム 一宮苑開園／海外ホームスイスイ実施／保健センター、開設 玉前神社殿と棟礼、県指定有形文化財に指定
- 1997年（平成9年）機構改革で河川対策課を設置。水害対策事業を重点施策に位置付ける／天道跨線橋・県営住宅（船頭給）完成／特別養護老人ホーム 一宮苑でデイサービス、介護支援事業開始／一宮スタッフ会、ポイントカードを実施 一宮中学校50周年記念事業
- 1998年（平成10年）海岸車道乗り入れ規制／残土条例施行／一宮購入町長への手紙実施／水害対策事業完成
- 1999年（平成11年）保健センター建設（12年）／一宮川「ふるさとの川整備事業」に指定／街路灯設置
- 2000年（平成12年）電話予約で、休日の諸証明を交付／河川改修事業着手／商工会と一宮スタッフ会、プレミアム付き商品券発売／地下汚染除去／シルバー人材センタースタート／国勢調査 人口116,488人 世帯数3,752世帯／増田明美さんを講師に、健康まつりを開催 一宮浪見小学校 全国保健体育優良校表彰／農業集落排水事業北部地区（15年）
- 2001年（平成13年）「芥川荘」が国登録文化財／「桃太郎おたすけ隊」結成／藤澤達則くん（日大二校）全国高校野球選手権大会優勝／小倉全田日大三校野球部監督を迎え教育講演会開催／一宮保育所全国大会で研究発表 ホームページを再構築 松子川ナイチャークラブ結成
- 2002年（平成14年）一宮町土木専門委員会解散 一宮観光いちご組合設立 通院介助事業「にこにこサービス」に改称し充実／一宮中学校設備補強工事実施／住民基本台帳ネットワークシステム稼働／一宮海岸の浜庫の状況、堂本知事視察、合併問題について 住民説明会開催／合併重点支援地域に指定される
- 2003年（平成15年）浜庫対策、着手／台風により海岸護岸に被害／長生郡市合併協議会設置／東浪見青年研修所跡地に集会所建設／防災行政無線親局を改修／浜庫のためはたして歩こう大会中止／東浪見小学校環境省自然環境局長賞受賞／まちづくり計画懇談会設置／創作の里建設／一総工社祭り、県指定無形民俗文化財に指定／観明寺十一面観音立像、県指定有形文化財に指定

熱波祭礼

「文化」はまた、熱を帯びて

人々の温かい血の中に流れ込む。

体の中心が爆発したように

震えるのは、御輿に宿った

代々の想いや祈りが、いま

この瞬間に同調したからだろう。

その念は、集いの輪をさらに

大きく、強くしていく。



高ぶる魂、熱い連帯

上総十二社祭り（通称・裸まつり）

9月13日、玉前神社を中心に、一宮町、長生村、睦沢町、岬町、茂原市の5市町村9社の氏子、1000人に及ぶ裸の男たちが会する、勇壮な裸祭り。房総半島で行われる浜降り神事のなかでも、最古の伝統と歴史を誇る祭りで、千葉県が無形民俗文化財に指定されています。

納涼花火大会

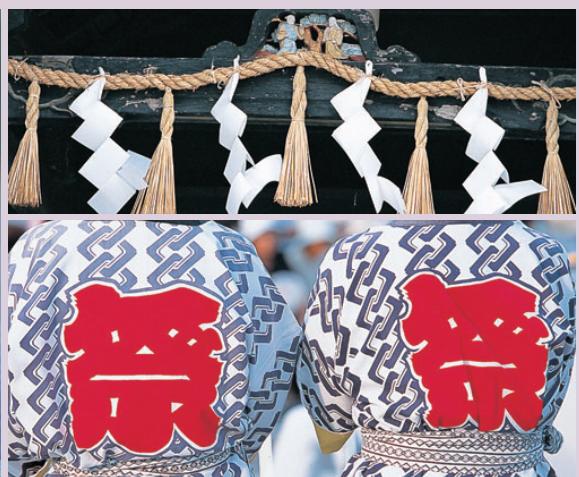
毎年8月に一宮海岸で行われる、九十九里地区最大級の花火大会です。次々と打ち上げられる花火の数は、およそ5000発にもなります。中でも、最大の見せ場は大玉の打上げ花火や水中スターマインの演出。華麗な花火が夏の夜空を彩ります。

上総国一宮まつり

にぎやかな出店が連なる通りで、バンド演奏、太鼓や踊りの披露が行われるにぎやかなお祭りです。メインイベントは、上総踊りコンクール。駅前に延びるおまつりロードを、子どもから大人まで約700名の踊り手が、日ごとの成果を披露して練り歩きます。

上総火まつり

毎年元旦の夜明け前から、一宮海岸で行われます。このお祭りは、平成7年から始まりました。浜辺に燃えさかる大やぐらと、太鼓の音とともに迎える新しい年の夜明けは、荘厳な雰囲気にも包まれます。





サンマのすしな



アジすしな



ナシの収穫

イチゴ
さわやかな甘みを持つイチゴ。一宮のイチゴは、色鮮やかで粒が大きく、甘みの強い点が特長です。また、イチゴが栽培されるハウス内はバリアフリーで、楽に実が採れるよう配慮され、誰でもイチゴ狩りが楽しめる工夫がされています。

すしな
かつて、お正月やお祭り、お祝い事には必ず食卓に並べられた、この地方の伝統的な押し寿司です。作るのに手間も時間もかかるので、最近は、一般の家庭でほとんど作られなくなってしまうしましたが、歯触りも味もとても良く、酒の肴やおかずとして根強い人気があります。



イチゴの栽培（イチゴ狩りが楽しめます）



JA長生グリーンウエーブ（出荷場）



トマトの栽培



メロンの栽培



省エネルギーガラス温室団地

ナシ
ナシの品種は、明治から大正にかけて、主に長十郎梨が栽培されていましたが、その後二十世紀梨が都会で好まれ、有名になりました。現在は「幸水」「豊水」も人気があります。一宮のナシは、東上総梨として主要な産物となっています。

トマト
トマト栽培は、大正13年から行われ、栽培方法や品種の改良によって、現在の主要産物となっています。主に作られている「ファースト」「桃太郎」は、身がしまっていて糖度が高く、日持ちもすることが特長です。

メロン
甘くて芳醇な香りを持つ「長生メロン」は、全国的に有名なブランド。その中でも特に一宮のメロンは、味も形も最高と評判です。その秘密は徹底的にコントロールされた温度と肥料、土の質。たっぷりの愛情と、手間ひまをかけて作られたマスクメロンは、主に東京方面に出荷されています。

美

大地と

味

海の

感

贈り物

動



サーフショップ



青

水 平

空

線 に

白

焦 が

波

れ て



昔はイワシの地曳網がさかんでしたが、年ごとに漁獲量も減り、以前のような様子は見られません。観光地曳網は好評で、毎年行われています。

地曳網

毎年夏の期間に運行し、JR上総一ノ宮駅の近くから、海水浴場を結ぶ夏の風物詩です。エンジンの排気音が「ボンボン」と音を出すことから、このように呼ばれるようになりました。

ボンボン船

九十九里浜の中でも、きれいな水と美しい砂浜で知られる一宮の海水浴場。シーズン中は、多くの観光客でにぎわいます。明治時代から有名な別荘も数多く、今も外房の観光地として、主要な位置を占めています。

一宮海水浴場

サーフィン
一宮海岸、東浪見海岸は、良い波ときれいな水に恵まれた、日本を代表するサーフィンスポットです。荒波に挑むサーファーの姿が、一年中見られます。

サーフィン



地曳網



一宮海水浴場



ボンボン船



未来に向けて

● 今までも、これからも、豊かで明るいまちづくりのため、私たちは日々励みます。 ●

学校教育は、完全学校週5日制のもと、家庭や地域の中で子どもたちが主体的に生活することを基本方針としています。そして、生きる力と創造性を育む教育を推進します。

町内には一宮小学校、東浪見小学校の2つの小学校と、一宮中学校の合わせて3つの町立学校があります。すべての学校にパソコンが導入され、インターネットなどにも対応しています。今後、耐震化を図るなど、子どもたちが安全に、安心して学べるような教育環境づくりをしていきます。

また、誰もが学ぶ機会を得られるよう、生涯学習の講座、教室の充実に図っています。そのほか、柔道や剣道に使用される振武館や、多目的に使用されるGSSセンターなど、各種施設の整備・拡充も行っています。

ますます高齢化がすすむ中、一宮町では、保健センターを拠点に保健活動の充実を図り、一人ひとりの健

康づくりを進めています。役場に隣接する保健センターは、新築されて、より利用しやすくなりました。この保健センターでは、各種検診が行われているほか、健康に沿ったテーマで定期的な料理講座が行われています。そのほか、乳幼児の育児相談を行い、子育ての悩みや疑問に答えます。

町内の保育所は、一宮保育所、東浪見保育所、原保育所など、町立、私立を合わせて4施設あります。今後、さらに時間外保育の対応ができるよう、体制の整備に努めていきます。



保健センターで行われている料理講座



原保育所

一宮小学校

東浪見保育所

東浪見小学校

GSSセンター

一宮中学校

振武館



一宮保育所の子どもたち



保健センター

議会



町四役（右より）近藤 直町長、若菜 孝助役、小倉耕一収入役、妹場 勝教育長



森 佐衛議長、藤井 敏恵副議長

一宮町議会は、住民と町政を結ぶパイプ役として機能し、行政を運営しています。選挙によって選ばれた18名の議員で構成され、定例議会や臨時議会を通して、条例の制定や予算の審議、町民から寄せられた請願・陳情の審査などを行います。



一宮町議会



窓口



一宮町役場



長生郡市合併協議会：平成15年8月20日に設置され、協議会、専門部会・分科会で検討が重ねられています。

住民の皆様の声を行政に生かすために、町民・議会・行政が一体となってさまざまな問題に取り組みます。今後も広報・広聴活動を充実させることで、行政と町民のふれあいを目指します。

また、行財政の計画的、効率的な運営を図るとともに、職員資質の向上や事務の合理化を進め、サービスの向上に努めます。

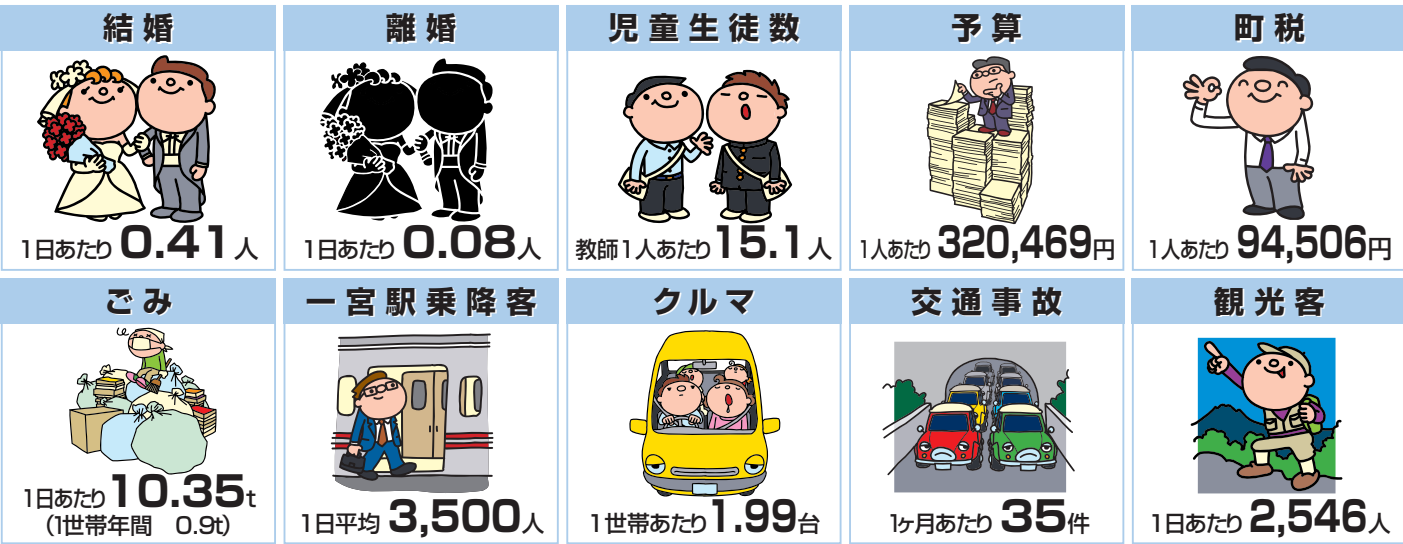
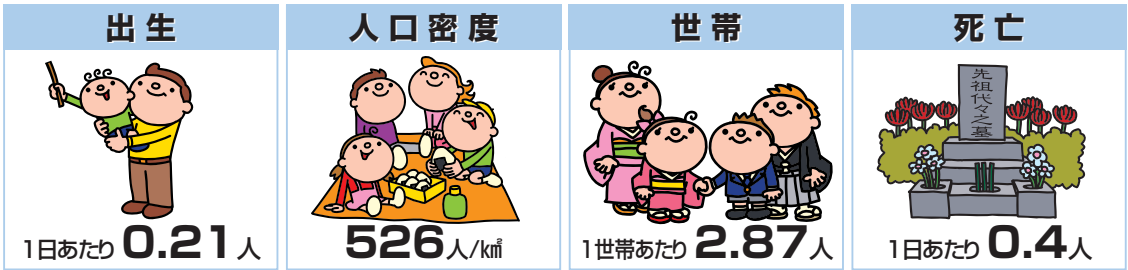
行政

一宮町資料編

数字で見る一宮町…26
健康……………28
面積・人口……………26
介護保険……………29
産業・農業……………27
財政……………30
生活……………28
行政組織機構図……31
教育・福祉……………28

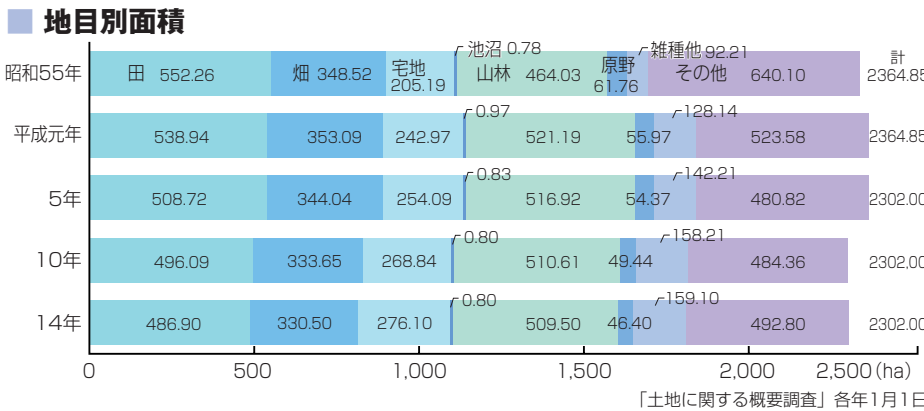
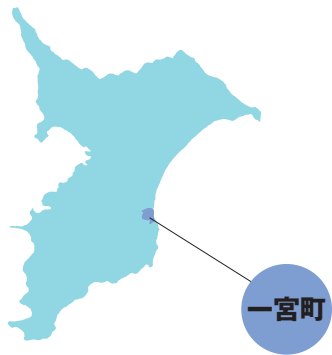
数字で見る一宮町

ichinomiyamachi



面積・人口

area / population



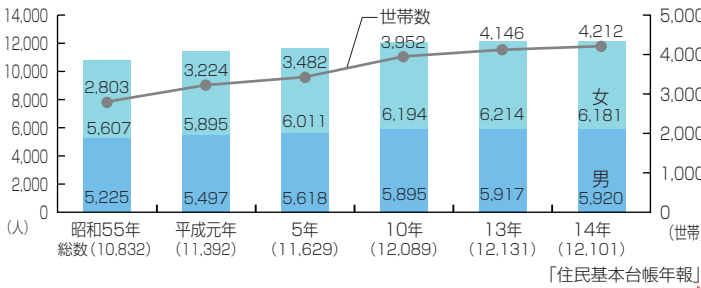
人口動態

(単位：人)

区分	自然動態			社会動態			総増減
	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減	
昭和55年	93	88	5	524	463	61	66
平成元年	84	106	△22	475	394	81	59
5年	89	86	3	613	498	115	118
10年	78	109	△31	702	500	202	171
13年	88	121	△33	507	522	△15	△48
14年	75	147	△72	498	460	38	△34

〔住民基本台帳年報〕

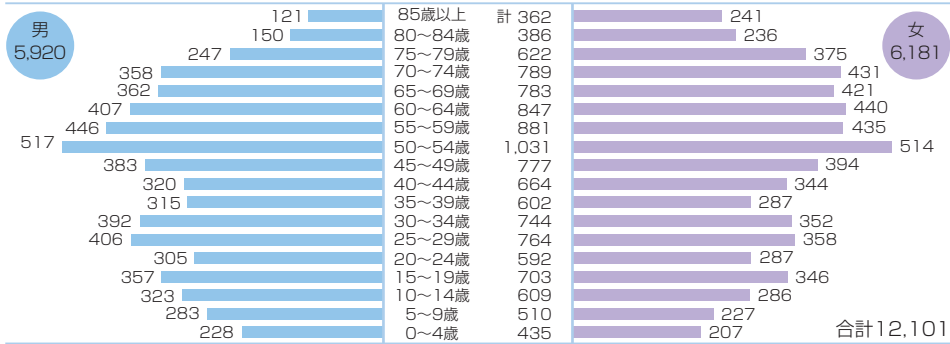
人口推移



〔住民基本台帳年報〕

年齢別人口

(単位：人)



〔住民基本台帳人口〕平成15年4月1日現在

外国人登録国籍別

オーストラリア	中国	インド
1	6	3
韓国又は朝鮮	マレーシア	オランダ
7	1	1
フィリピン	タイ	米国
22	3	3
カナダ	ルーマニア	合計
1	3	51

平成14年4月1日現在

産業

industry

産業大分類別15歳以上就業者数

(単位：人)

区分	昭和55年	平成2年	平成7年	平成12年
総数	5,435	5,699	5,779	5,702
第1次産業				
総数	1,431	1,019	957	783
農業	1,426	1,017	957	783
林業	1	—	—	—
漁業	4	2	—	—
第2次産業				
総数	1,210	1,521	1,449	1,404
鉱業	7	10	11	1
建設業	428	493	537	520
製造業	775	1,018	901	883
第3次産業				
総数	2,790	3,147	3,367	3,514
電気・熱・ガス・水道	46	36	44	49
運輸・通信業	313	261	275	262
卸売・小売・飲食店	1,098	1,221	1,213	1,183
金融・保険業	96	118	131	108
不動産業	48	61	82	72
サービス業	995	1,223	1,365	1,601
公務員・その他	194	227	257	239
分類不能の産業	—	12	6	1

〔国勢調査〕毎年10月1日現在

産業就業者構成比

(単位：%)

区分	昭和55年	平成2年	平成7年	平成12年
第1次産業	26.3	17.9	16.5	13.7
第2次産業	22.3	26.7	25.1	24.6
第3次産業	51.4	55.2	58.3	61.7
分類不能産業	—	0.2	0.1	0.0

〔国勢調査〕毎年10月1日現在

商店の状況

区分	商店数(店舗)	従業者数(人)	年間商品販売額(万円)	売場面積(m ²)
昭和60年	191	801	1,569,610	8,744
平成3年	199	900	1,640,393	11,430
6年	187	1,057	1,707,251	12,285
9年	174	763	1,400,017	11,228
11年	190	949	1,545,051	13,438

〔千葉県の商業〕

鉱工業の状況

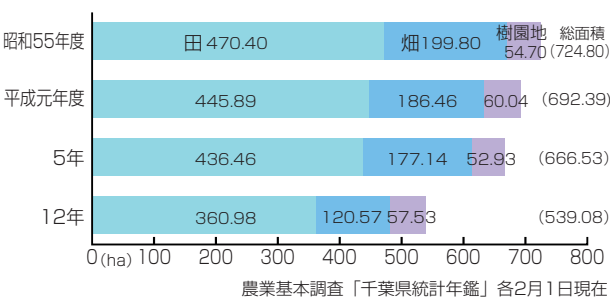
区分	事業所数(店舗)	従業者数(人)	製造品出荷額等(万円)
昭和55年	44	392	470,744
平成元年	31	472	796,326
6年	28	453	563,400
10年	27	395	808,327
11年	30	400	612,608
12年	29	402	640,460
13年	26	381	603,227

〔工業統計調査報告書〕

農業

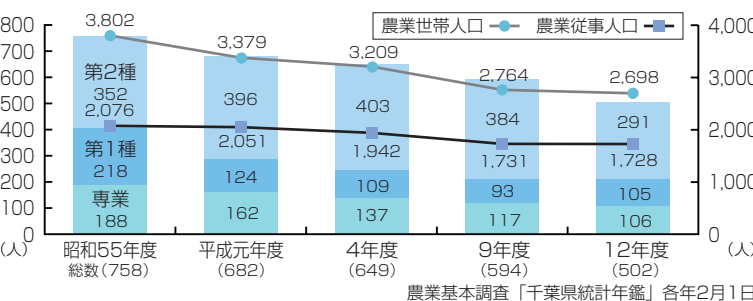
agriculture

経営耕地種類別面積



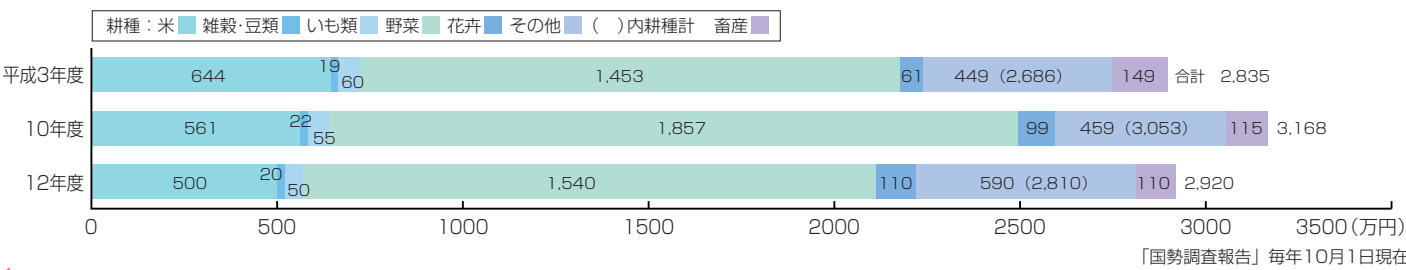
農業基本調査「千葉県統計年鑑」各2月1日現在

農業の状況・農家の数及び農業人口の推移



農業基本調査「千葉県統計年鑑」各2月1日

農業粗生産



〔国勢調査報告〕毎年10月1日現在

■ 老人保健・医療給付の状況

区分	医療給付 対象者数(人)	総数		医療の給付		医療費		高額医療費	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
昭和60年	857	11,162	247,480,772	10,717	240,452,150	445	7,028,622	—	—
平成元年	903	12,645	349,698,369	12,218	339,688,239	427	10,010,130	—	—
5年	1,045	15,825	425,213,041	15,424	418,660,056	401	6,552,985	—	—
10年	1,373	27,584	632,978,303	27,039	626,616,601	545	6,361,702	—	—
14年	1,634	35,430	925,712,963	34,831	917,501,448	599	8,211,515		

「国民健康保険事業状況報告書(事業年報)」

■ 健康診査受診状況

区分	1.6歳児 健康診断	3歳児 健康診断	胃がん	子宮がん	乳がん	肺癌喀痰	大腸がん (1回目)	大腸がん (2回目)	結核検診 間接撮影	基 本 健康診査	前立腺がん
昭和60年			596	477					3,574	1,919	
平成元年	84	108	1,110	570	712	99			3,524	1,561	
5年	74	74	1,077	617	661	403	890	930	3,331	1,482	
10年	73	95	1,014	619	664	246	945	895	2,865	1,127	
14年	76	92	1,102	723	823	388	1,231		3,063	1,536	318

「保健所事業年報」

(単位：人)

■ 予防接種実施状況

(単位：人)

区分	平成元年	平成5年	平成10年	平成14年
百日せき・破傷風・ジフテリア	382	302	359	352
ジフテリア・破傷風	154	132	131	111
ポリオ	173	202	173	217
風しん	43	15	201	87
麻疹	80	87	83	82

「保健所事業年報」

介護保険

nursing-care insurance

■ 居宅サービス

区分	訪問介護		訪問入浴		訪問看護		通所介護	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
平成12年度	450	25,555,230	135	4,324,708	72	3,430,476	442	17,291,268
13年度	638	39,888,058	213	7,736,438	89	4,408,428	485	20,362,194
14年度	849	60,976,317	284	11,969,008	103	4,557,145	556	22,147,866

区分	通所リハビリテーション		福祉用具貸与		短期入所		居宅療養	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
平成12年度	119	6,662,286	194	1,905,075	173	12,032,697	97	580,680
13年度	139	7,256,412	475	5,846,265	148	10,549,893	26	117,390
14年度	173	11,837,511	606	7,880,265	186	19,327,855	1	4,590

区分	老健短期入所		痴呆共同生活		短期入所振替		小計	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
平成12年度	7	196,470	1	52,857	33	3,580,884	1,723	75,612,631
13年度	10	603,072	8	1,552,500	27	3,877,218	2,258	102,257,868
14年度	23	1,456,434	45	9,341,892	廃止		2,826	149,498,883

■ 施設サービス

区分	特別養護老人ホーム		老人保健施設		療養型病床群		食事費用他		小計	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
平成12年度	170	42,133,541	261	62,836,881			431	19,518,789	862	124,489,211
13年度	312	75,776,637	340	69,696,893	17	4,336,299	669	28,310,124	1,338	178,119,953
14年度	356	87,680,624	435	106,997,204	23	6,137,460	814	33,165,366	1,628	233,980,654

■ 医療関係施設数

区分	一般 診療所	歯科 診療所	助産所	施術所 按摩・マッサージ・指圧・ 針灸・柔道整復
昭和60年	11	4	3	16
平成元年	10	5	3	15
5年	8	5	3	16
10年	11	7	2	16
14年	12	7	2	18

「保健所事業年報」

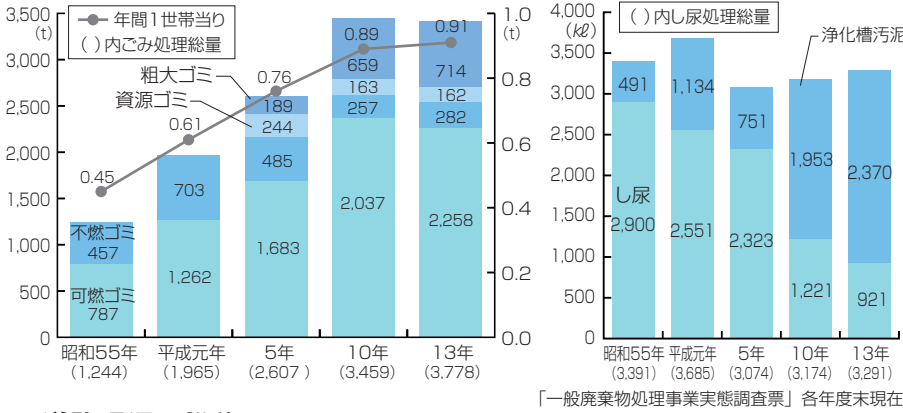
(単位：人)

※大腸がんは13年から1回 「保健所事業年報」

生活

life

■ 一般廃棄物収集処理量の推移



「一般廃棄物処理事業実態調査票」各年度末現在

■ 道路現況の推移

区分	道路実延長(m)	舗装済延長(m)	舗装率(%)	改良済延長(m)	改良率(%)
昭和55年	236,423	47,757	20.2	76,425	32.3
平成元年	232,906	108,755	46.7	118,542	50.9
5年	234,755	123,108	52.4	123,653	52.7
10年	236,010	140,308	59.5	128,614	54.5
14年	238,787	159,219	66.7	133,528	55.9

「道路台帳」各年度末現在

■ 上水道の状況

区分	給水人口(人)	給水戸数(戸)	普及率(%)	1日最大給水量(m ³)	1日平均給水量(m ³)	1人1日最大給水量(ℓ)	1人1日平均給水量(ℓ)	年間総配水量(m ³)	給水栓数(栓)
昭和55年	9,765	2,504	92.9	3,485	2,917	357	299	799,258	2,504
平成元年	10,632	3,041	95.4	4,638	3,618	436	340	1,320,571	3,356
5年	10,822	3,249	95.7	4,823	4,007	446	354	1,462,399	3,767
10年	11,251	3,699	96.0	5,303	4,227	471	376	1,543,016	4,377
14年	11,260	3,958	96.0	4,899	3,974	435	353	1,450,573	4,635

「長生都市広域市町村圏組合水道部実績」各年度末現在

教育・福祉

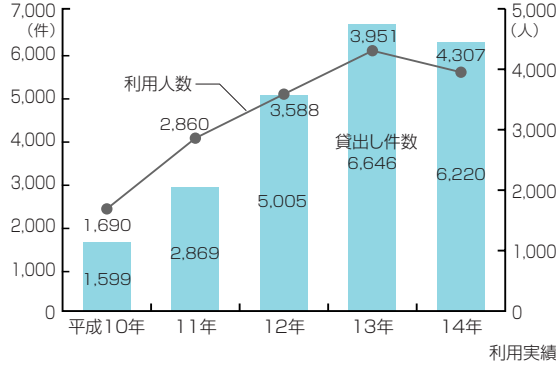
education /welfare

■ 保育園児、小中学校児童、生徒・教師数の推移

区分	東浪見 保育所	原 保育所	一宮 保育所	※愛光 保育園	東浪見小学校 児童	東浪見小学校 教師	一宮小学校 児童	一宮小学校 教師	一宮中学校 生徒	一宮中学校 教師
昭和55年	60	60	120	49	194	12	745	32	394	21
平成元年	60	60	120	49	164	12	627	28	535	29
5年	59	59	120	59	173	11	630	27	404	26
10年	40	60	117	60	131	11	575	28	462	30
14年	41	67	107	77	96	11	549	28	381	29

※愛光保育園は私立 「学校基本調査」各年度5月1日現在

■ まちの図書室利用人数、貸出し件数の推移



利用実績

健康

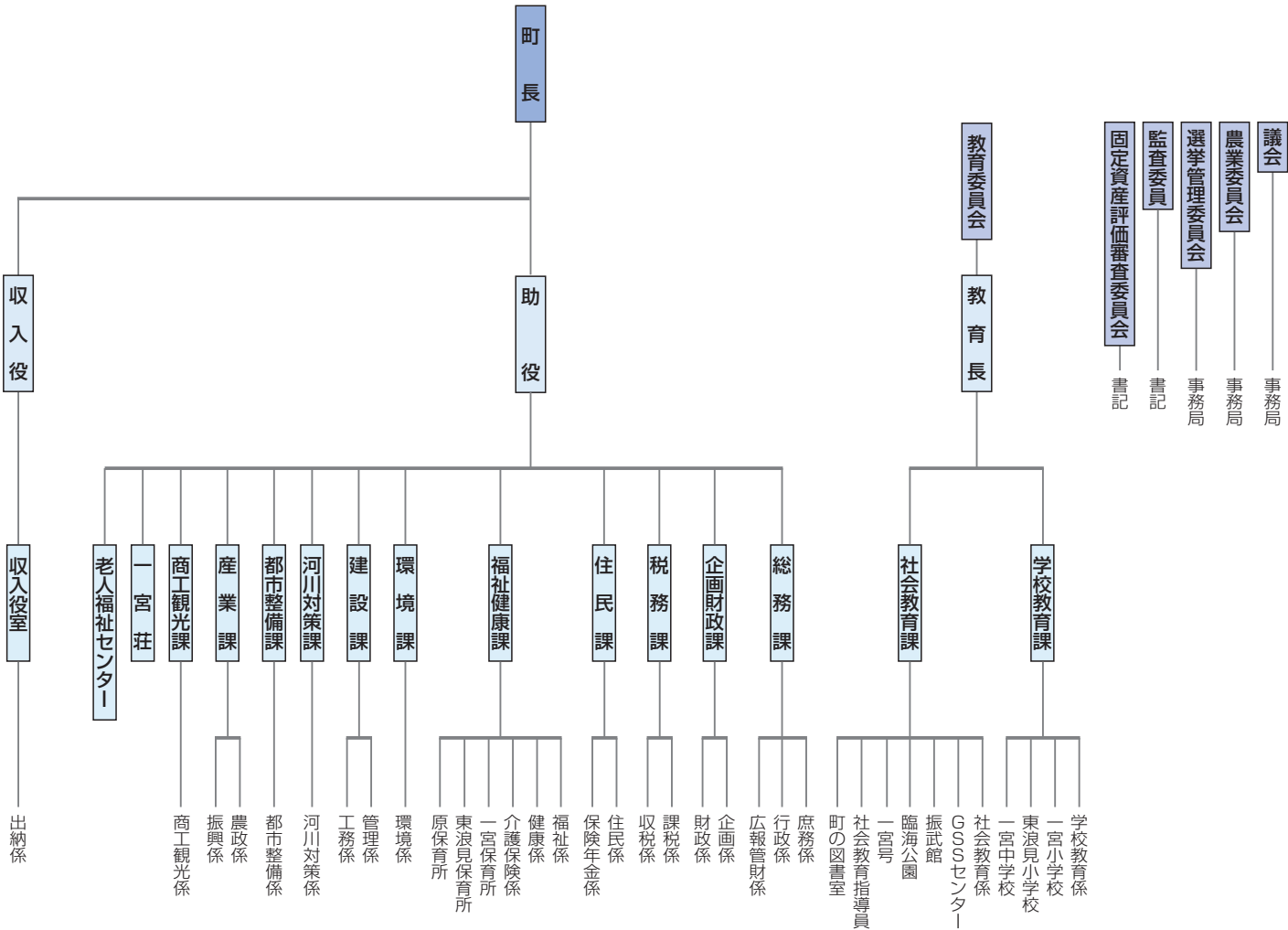
health

■ 国民健康保険加入及び療養給付費等の状況

区分	被保険者		総数		療養の給付		療養費		高額療養費		その他の給付		1人当りの 保険税(円)	1世帯当りの 保険税(円)
	世帯	人口	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)		
昭和55年	1,795	5,662	35,977	449,170,281	34,686	418,518,138	744	8,989,185	450	16,502,958	97	5,160,000	23,091	73,653
平成元年	1,905	5,207	32,436	562,344,250	30,586	511,600,679	1,264	11,136,263	483	31,677,308	103	7,930,000	64,623	176,637
5年	1,990	5,010	31,893	573,184,134	30,186	524,560,251	1,134	9,281,623	495	30,652,260	78	8,690,000	68,260	172,647
10年	2,223	5,128	37,474	513,662,502	35,850	451,964,025	1,032	7,634,531	496	42,283,946	96	11,780,000	74,708	174,158
14年	2,607	5,650	28,977	491,106,184	28,025	481,406,838	952	9,699,346	430	39,703,866	0	0	74,279	162,963

「国民健康保険事業状況報告書(事業年報)」

一宮行政機構図



歴代町長(合併後)

歴順	氏 名	就任期間
初 代	久我掄太郎	昭和28年11月21日～昭和31年5月
2代目	近藤 三郎	昭和31年 5月26日～昭和35年5月25日
3代目	近藤 三郎	昭和35年 5月26日～昭和39年5月25日
4代目	清水 孝平	昭和39年 5月26日～昭和43年5月25日
5代目	近藤 三郎	昭和43年 5月26日～昭和47年5月25日
6代目	近藤 三郎	昭和47年 5月26日～昭和51年5月25日
7代目	向井 十郎	昭和51年 5月26日～昭和55年5月25日
8代目	向井 十郎	昭和55年 5月26日～昭和59年5月25日
9代目	向井 十郎	昭和59年 5月26日～昭和63年5月25日
10代目	渡辺 英光	昭和63年 5月26日～平成 4年5月25日
11代目	渡辺 英光	平成 4年 5月26日～平成 8年5月25日
12代目	近藤 直	平成 8年 5月26日～平成12年5月25日
13代目	近藤 直	平成12年 5月26日～

歴代議会議長(合併後)

歴順	氏 名	就任期間
初 代	清水 孝平	昭和28年 11月 日～昭和29年 6月
2代目	田中 広俊	昭和29年 7月 日～昭和29年11月
3代目	清水 孝平	昭和29年 11月 8日～昭和31年11月 2日
4代目	長谷川 等	昭和31年 11月 3日～昭和33年11月 2日
5代目	渡辺 武司	昭和33年 11月 5日～昭和37年11月 2日
6代目	清水 孝平	昭和37年 11月 6日～昭和39年 4月 4日
7代目	石野 益二	昭和39年 6月24日～昭和41年11月 2日
8代目	酒井伊之助	昭和41年 11月 7日～昭和45年11月 2日
9代目	酒井伊之助	昭和45年 11月 6日～昭和49年11月 2日
10代目	酒井伊之助	昭和49年 11月 5日～昭和53年11月 2日
11代目	中村孫右衛門	昭和53年11月10日～昭和57年11月 2日
12代目	秋山嘉平治	昭和57年11月13日～昭和61年11月 2日
13代目	長谷川 静	昭和61年11月21日～平成 2年11月 2日
14代目	篠瀬三喜男	平成 2年11月 6日～平成 6年11月 2日
15代目	篠瀬三喜男	平成 6年11月10日～平成10年11月 2日
16代目	秋場 哲	平成10年 11月 9日～平成12年11月 6日
17代目	小関 国男	平成12年 11月 6日～平成14年11月 2日
18代目	森 佐衛	平成14年 11月 7日～

第1号被保険者数・世帯

区分	65歳以上75歳未満(人)	75歳以上(人)	世帯数(世帯)
平成12年度	1,628	1,242	1,994
13年度	1,588	1,316	2,029
14年度	1,573	1,349	2,048

(単位：人)

区分	要支援			要介護1			要介護2			要介護3		
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
第1号被保険者	9	14	16	40	42	59	52	52	51	32	44	37
内訳	65歳以上75歳未満	1	1	4	5	9	8	11	9	5	4	6
	75歳以上	8	13	12	35	33	44	41	42	27	40	31

区分	要介護4			要介護5			計		
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
第1号被保険者	24	34	42	30	45	45	187	231	250
内訳	65歳以上75歳未満	2	8	6	5	2	26	35	42
	75歳以上	22	26	36	25	43	161	196	208

財政

finances

一般会計決算状況(歳入)

区分	平成3年度		平成10年度		平成14年度	
	決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)
町税	1,331,301,905	114	1,299,013,750	98	1,278,167,861	100
地方交付税	854,085,000	102	1,264,629,000	113	1,143,025,000	90
国庫支出金	314,948,537	85	165,406,224	58	167,930,705	154
県支出金	241,771,756	76	705,816,645	318	300,292,463	105
町債	151,800,000	149	322,112,000	94	279,200,000	185
その他	1,130,296,766	95	752,911,522	105	797,097,802	93
合計	4,024,203,964	101	4,509,889,141	113	3,965,713,831	100

〈町税の内訳〉

区分	平成3年度		平成10年度		平成14年度	
	決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)
町民税	781,723,803	120	528,890,036	91	497,125,604	100
固定資産税	473,107,050	107	677,940,230	105	698,925,000	101
軽自動車税	10,938,300	105	12,586,000	100	14,736,600	104
町たばこ税	55,590,152	101	71,121,384	99	64,464,957	91
鉱産税	2,142,600	99	2,341,300	102	2,543,100	99
特別土地保有税	7,800,000	111	6,134,800	81	372,600	12

〈歳出〉

区分	平成3年度		平成10年度		平成14年度	
	決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)
議会費	95,303,647	114	104,426,937	102	100,946,615	99
総務費	800,234,163	114	636,174,224	92	746,858,896	95
民生費	342,984,053	120	459,050,991	112	409,272,293	98
衛生費	381,044,903	135	551,653,415	110	507,722,617	101
農林水産業費	266,052,461	72	528,485,741	185	498,549,513	115
商工費	65,628,546	102	69,943,492	102	70,628,235	92
土木費	1,003,316,742	90	787,624,293	99	335,918,021	115
消防費	132,530,262	107	189,046,882	105	189,182,825	98
教育費	338,109,992	111	384,579,839	112	350,110,885	87
災害復旧費	14,899,340	517	7,800	12	0	0
公債費	258,752,858	102	300,985,993	105	287,883,460	99
諸支出金	147,191,283	150	218,106,256	124	328,245,296	106
合計	3,846,048,250	104	4,230,085,863	110	3,825,318,656	101

〔各年度一般会計決算書〕

会計別決算状況 (上段：歳入 下段：歳出)

区分		平成3年度		平成10年度		平成14年度	
		決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)	決算額(円)	対前年比(%)
一般会計		4,024,203,964	101	4,509,889,141	113	3,965,713,831	100
		3,846,048,250	104	4,230,085,863	110	3,825,318,656	101
特別会計	国民健康保険	691,602,901	99	785,199,761	96	1,009,813,532	101
		659,416,600	106	698,470,790	95	932,842,598	105
	老人保健	562,335,686	106	993,643,584	101	1,145,587,954	96
		562,335,686	109	943,767,190	101	1,093,091,351	95
	介護保険		—	—	—	477,944,431	107
			—	—	—	466,087,938	109
	一宮荘	156,576,581	99	139,506,272	97	119,106,438	87
		144,112,973	97	128,703,922	98	103,357,572	84
	母子休養ホーム	22,846,214	121	20,932,417	91	18,414,255	98
		22,073,131	121	20,639,584	90	17,167,045	95
	老人福祉センター	18,509,040	71	48,512,345	192	20,399,040	54
		17,641,040	71	48,114,571	200	19,976,263	54
	農業集落排水事業	62,662,206	58	94,155,112	104	594,687,161	141
		61,917,972	58	89,796,029	101	587,349,358	142
歳入合計歳出		5,538,736,592	100	6,591,838,632	108	7,351,666,642	102
合計		5,313,545,652	103	6,159,577,949	107	7,045,190,781	103

〔各年度一般会計及び各特別会計別決算書〕

一宮町イラストマップ



ボンボン船

一宮川を往復するボンボン船は、夏の風物詩として古くから人々に親しまれてきました。



サーフィン

東浪見海岸は特に有名。大きなサーフィン大会がよく開かれます。



観光地曳網

古くは江戸時代から行われていました。今も夏の時期に行われている、人気のイベントです。



洞庭湖

かつて、水に乏しかった一宮に水を引くため、加納藩が築いた人工湖。桜の名所として知られています。

一宮町町民憲章

緑と海と太陽の町

わたくしたちは、先人が培い伝えてきた伝統と文化と自然の恵みを一層大切にし、より豊かに美しくより調和のとれた活力ある町をめざし、この憲章を定めます。

わたくしたちは

1. 心身を鍛え、スポーツに親しみ、健康で明るい町をつくります。
1. 自然を愛し、花や緑を育て、きれいな町をつくります。
1. 歴史や文化を大切にし、平和で豊かな町をつくります。
1. 思いやりの心を育て、助け合いの町をつくります。
1. 青少年を健全に育て、産業を振興し、活力のある町をつくります。



町章



町の花・ヤマユリ



町の木・クロマツ

Sunny Town ICHINOMIYA 一宮町町勢要覧2004

発行日●平成16年(2004)3月

発行●千葉県長生郡一宮町

編集●一宮町役場総務課

〒299-4396 千葉県長生郡一宮町一宮2457

☎0475-42-2111(代)

ホームページ●<http://www.town.ichinomiya.chiba.jp>

制作●株式会社 ぎょうせい